

# 才九回大会記事

本会昭和四十三年度大会は、去る十月二十七日、弘前大学教養部に於て開催され、約三十名の参会者があつて盛會であつた。当日の行事は左の通りである。

◎研究発表会（一〇、〇〇〇）教養部三番教室）

「江戸時代の十三湊」 弘前南高校 佐藤 仁

「多内院の書の書能的研究」 青森県立図書館 小笠原 二郎

「津軽曹洞宗式存説」 弘前実業高校 小笠原 三

◎昼食懇談会（一、二、〇〇〇）教養部会議室）

◎総会（一、三、〇〇〇）全 右

1. 挨拶、会計報告
2. 役員改選
3. その他

佐藤氏の「江戸時代の十三湊」住民の生活と人口」と題する発表は、十三湊に対する藩当局の施策、人口の変遷などの関連から、藩米輸送に当つた小廻り船の活躍を述べ、江戸時代に全く衰微したかにいわれて来た十三湊が、実際は港としての機能をかなりもつていたことを論証したものである。

小笠原二郎氏の発表は、新たに県立図書館に寄託された三三戸町田中村（現新郷村）所在の本山派修験道多内院の文書の内容を紹介して、この分野の解明の重要性を提言したものである。

また、小笠原氏の発表は、津軽領における曹洞宗発展の

次々と原因を明らかにし、その後の民衆への伝播を考ふる基礎としようとする趣旨のもので、この発表をもとにされたのが、本号所載の論稿である。

懇談会は、新しく入会の会員や、秋田県から参会の会員も加え、和やかなうちに近況報告などがあつた。特に羽賀先生の県立郷土館設立に關連したお話しや、虎尾先生の金米の江戸村を訪ねてのお話しなど、文化財保護行政についての認識を新たにする有意義な一刻とも存つた。

総会は、宮崎会長が出張旅行のため、虎尾副会長の挨拶があつて議事が進められた。庶務会計報告は委員提案通り承認され、会則も現行通りとなつたが、諒解事項才四項の詠代は、普通号現行一五〇円が二〇〇円に値上げ承認された。従つて今後は、会費年額二〇〇円、詠代二〇〇円の四号分八〇〇円、合計一、〇〇〇円が会員の負担となるわけであるが、諸物価高騰の折柄会員各位の御協力をお願いしたい。なお、会誌の郵送料は会員負担となっているが、才五十号から「芸術刊行物」の承認を得て発送していることも御承知いただきたい。

役員は会長以下苗任ときまり、委員については若干増員することも含めて会長一任となつた。後日会長から委員の委嘱があつたので、新しい役員は後記の通りとなつた。なお、名誌発行の要望もあり、近く実現すべく準備中であることを付言して大会報告とします。（荒井清明記）

弘前大学国史研究会役員（四三〇二七以降）〈五十音順〉

会長 宮崎直生（人文学部教授）

副会長 虎尾俊哉（教育学部教授）

委員 荒井清明（弘前中央高校）

菊地修一（弘前工業高校）

佐藤 仁（弘前南高校）

藤野直生（人文学部助教授）

理事 工藤守夫（船沢中学校）

羽賀幸七郎（教養部教授）

榎名庸一（弘前南高校）

小館衷三（弘前実業高校）

目足正朝（弘大付属中学校）

村越 家（教育学部助教授）

千葉良一（五所川原才中学校）